

## コロナワクチン駆け込み接種、都庁会場に2倍近くの人…無料は31日まで

2024年3月30日読売新聞

新型コロナウイルスワクチンの無料接種が31日に終了する。東京都内で最後まで残る都庁（新宿区）の北展望室の大規模接種会場には今月に入り、「駆け込み接種」で通常の2倍近い人が訪れており、都は、受付時間を拡大するなどして対応している。（岡本立）

	5類移行直後 2023年5月8日 ～9月末	現 状 23年10月～ 今年3月末	今年4月 以降
治療薬	全額 公費負担	3割負担者は 定額9000円	通常の 医療費の 自己負担と 同様
入院費	高額療養費 制度適用後 に最大2万円 補助	最大1万円 補助に減額	高額療養費 制度の適用 のみ
確病床 保料	一律に支給	感染拡大時 に支給	廃止
診療報酬	患者の 受け入れ などで支給	減額	新型コロナ 以外も含む 発熱患者への 対応に加算

【表】新型コロナにかかった際の自己負担、4月からこう変わる

都庁第1本庁舎の45階にある北展望室。22日夕、親子連れやスーツ姿の男性らが4か所のブースに次々と入り、接種を受けていた。小学生の子ども2人を連れて訪れた八王子市の会社員女性（44）は「地元で予約が取れず、困っていた。まだ感染が落ち着いたとは思えないので、これで少し安心できるかな」とほっとした様子だった。

都が北展望室に接種会場を設けたのは2021年6月18日。当初は、東京五輪・パラリンピックの大会関係者らが対象だった。同25日には、南展望室も接種会場となった。展望室

を選んだのは、「景色の良い場所なら、多くの方が接種を受けに来てくれるのではないか」（都幹部）との思惑もあったという。

ただ、展望室ならではの苦労も。ワクチンは紫外線に弱いため、大きな窓から差し込む日光を避け、冷凍庫から出したらすぐアルミホイルで覆うようにした。冷凍庫はフロアの電気容量が足りず、別の階にも設置。ワクチンが足りなくなるたび、スタッフがフロアを行き来した。都幹部は「とにかく、ワクチンが駄目になって使えなくなるのを防ごうと必死だった」と明かす。

都の接種会場はピーク時の21年夏には約20か所に達したが、感染状況の落ち着きとともに徐々に閉鎖された。南展望室は22年8月に役目を終え、一般開放を再開。北展望室とともに今月まで残っていた千代田区の教職員互助会三楽病院の会場も、29日に閉鎖された。

接種は4月から、高齢者や重度の基礎疾患を持つ60～64歳の人を除き、原則、全額自己負担（1回あたり1万5300円程度）となる。詳細は未定だが、接種を希望する場合、インフルエンザなどと同様、自身で医療機関などを探して受けに行くことになるという。

そのため、今月中に接種を受けようとする人も多く、1～2月は1週あたり1000人前後だった北展望室会場の利用者は、3月に入ると徐々に増加。第4週は約1800人に上った。

接種希望者の急増を受け、都は会場の運営日を1日増やし、31日の日曜も受け付けることにした。30、31日は、受け付け開始を2時間前倒しし、午前11時（予約がない場合は正午）とする。

都の接種会場で接種を受けた人はのべ202万人で、うち都庁の利用者はのべ70万人以上に達する。都医療体制整備第2課の木村圭介・ワクチン担当課長は「4月以降にウイルスがなくなるわけではない。最終日まで一人でも多くの人に接種を受けてほしい」と話した。

### 「相談センター」今月末で廃止

都の新型コロナウイルス対策は4月から大きく変わる。

都民からの相談対応や医療機関の案内を24時間電話で行ってきた「新型コロナ相談センター」は廃止される。発熱するなどして医療機関を探す場合、他の病気と同様、都の医療機関案内サービス「ひまわり」(03・5272・0303)などに問い合わせることになる。

後遺症について、都のホームページで受診できる医療機関の公表は続くが、都立病院に設置していた相談窓口は終了する。一方、ワクチンの副反応に関する相談センター(03・6258・5802)は継続する。感染の再拡大に備え、感染防護服やコロナの検査キットの備蓄も当面は続ける。